

第4回

古代山城サミット 高松大会

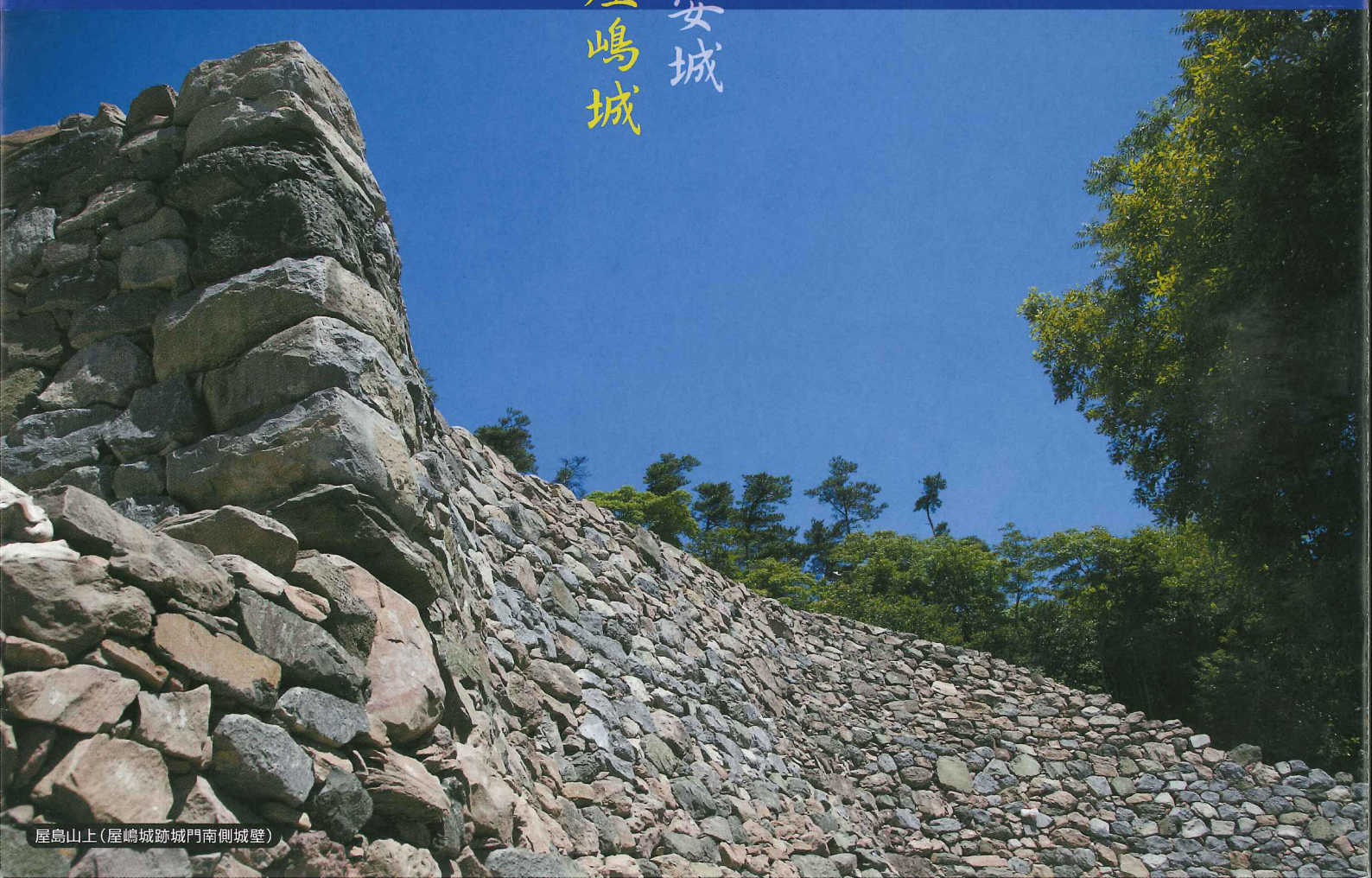
平成25年 10月5日(土) シンポジウム

天智六年十一月

是月築倭國高安城

讃吉國山田郡屋嶋城

對馬國金田城



古代山城 屋嶋城

天智天皇6年条11月に
「是月築倭國高安城 讃吉国山田郡屋嶋城 對馬國金田城」
という記載が残る。

屋嶋城が築かれた屋島は名前のとおり古代においては島で、瀬戸内海の備讃瀬戸の東限に位置する。
この備讃瀬戸を抜けてしまえば、一気に畿内まで攻め上がることが可能な要所である。

城壁総延長7kmにおよぶが、人工的な構築物はそのうちの約10%に過ぎない。これはメサ地形特有の
山頂部が平坦で、その縁辺が急峻という天然の要害をうまく活用したためで、谷などの守りが手薄な部分の
みに城壁を築いている。

屋嶋城跡は城壁のほかには水門推定地が2ヵ所、城門が1ヵ所、貯水池(血の池)などを確認している。
建物群は確認されていないが、四国霊場八十四番札所南面山屋島寺周辺は南嶺において最も平坦地を
確保できる場所であり、宝物館建設の際の発掘調査では7世紀後半の遺物が出土しており、建物等の施
設が存在した可能性が高い場所と言える。

屋島東部の湾は檀ノ浦という地名が残っており、当時、軍団の基地として機能していたと考えられている。

城門地区 ⑨

城門地区は南嶺の南西斜面に位置し、屋嶋城発見の契機となった場所で、城
壁を最も大規模に構築していることが判明している。発掘調査によって高さ6mに
及ぶ城壁を城門を挟んで南北に構築し、城壁の前面は石積みで横長の安山岩
の自然石や転石を利用して布積みを基調として積上げている。城内側にも小規模
な石積みがある。城門は、高さ2.5mの段差を設けた懸門構造である。門道は階
段状を呈し、奥には揺鉢状に岩盤がせり立ち、その上部に列石を用いた土塁が
築かれていた。これは城門を突破した敵が城内へ容易に侵入できないように構築
したもので、古代山城では甕城(おうじょう)と呼ばれている。この懸門と甕城は日
本の古代山城のみならず、朝鮮半島の同時代に築かれた山城に特徴的な構造
物で、屋嶋城の築城記事には亡命百済人の名前が出てこないが、築城工事の設
計監理に百済人が関与したことを示す非常に貴重な遺構である。

また、城門地区の城門および城壁修復元工事によって、城壁の築城技術が
明らかとなった。



発見当時の高石垣



城門遺構



懸門



側壁背面の石積み



背面列石と列石



発掘後の高石垣



土器出土状況



背面列石



門道



甕城

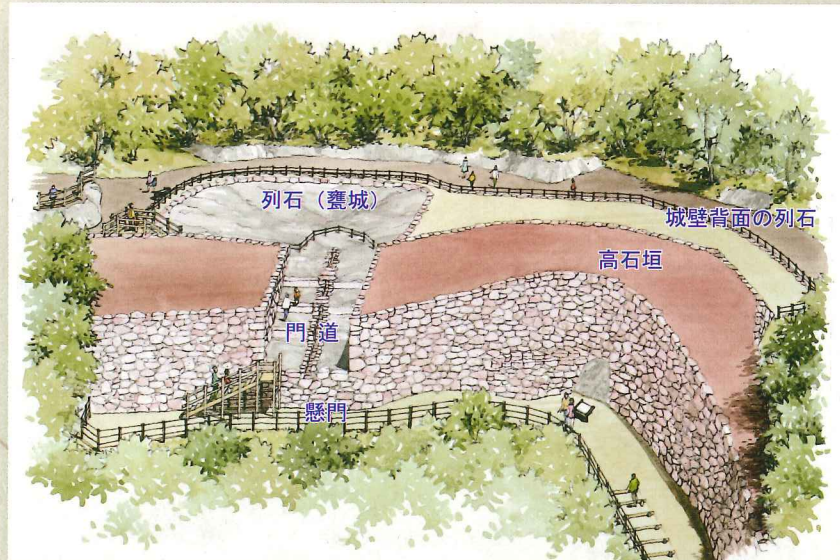
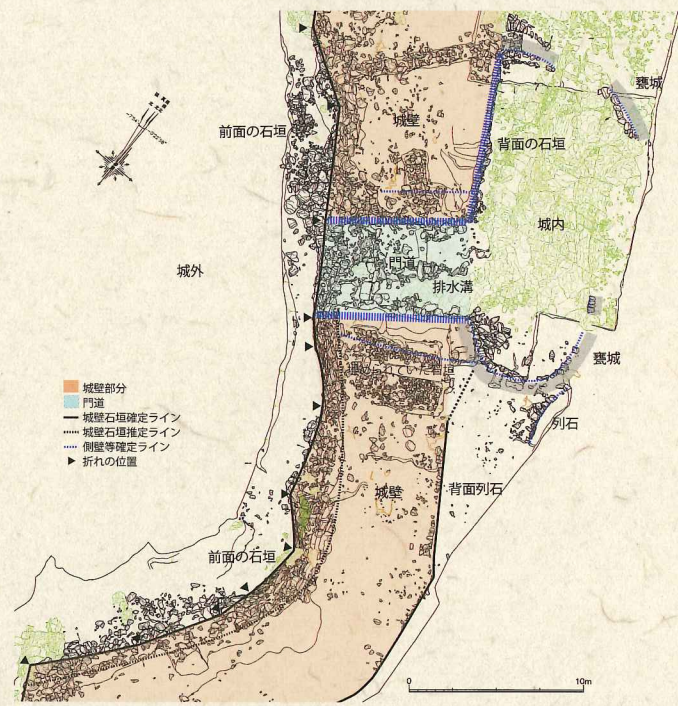
！屋嶋城の発見

屋嶋城はその名が『日本書紀』に記されており、古くからその存在は記憶として受け継がれ、『南海通記』『讃岐国名勝図会』などにも登場するが、その姿を見たものはなかった。

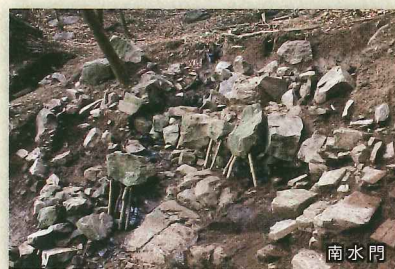
大正8年に関野貞氏が『史学雑誌』に屋島山頂の血の池や北嶺の標高100m付近に位置する浦生の石塁を報告し、その後、岡田唯吉氏も『史蹟名勝天然記念物調査報告』に同様な
報告を行う。また、山上遺構については、昭和60年に村田修三氏が南嶺の北斜面の土壇(土塁)状遺構の存在を指摘していた。



屋嶋城跡から出土した遺物



屋嶋城跡城門地区復元イメージ図



10

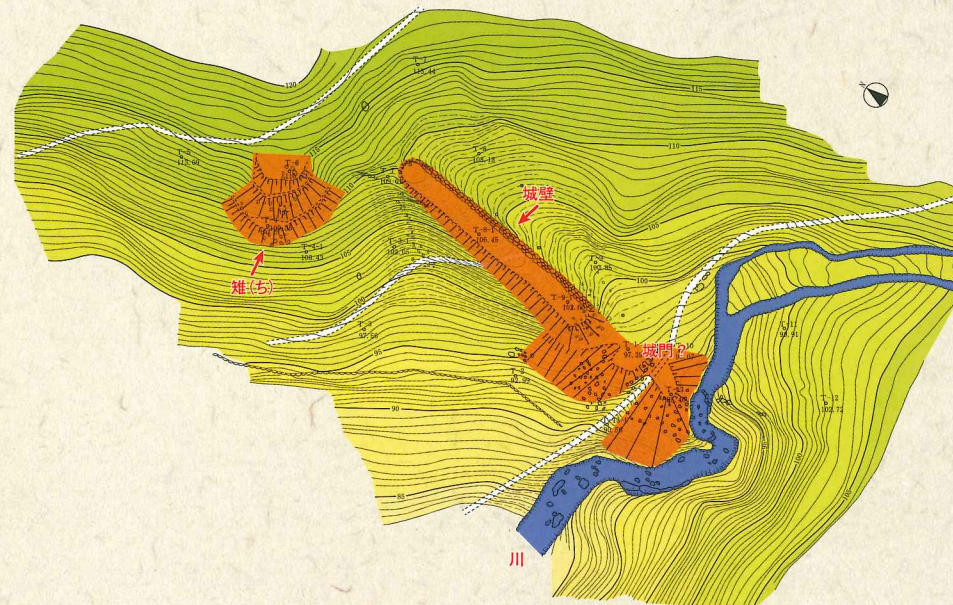


5

浦生地区 ⑪

浦生地区は、関野氏や岡田氏によって屋嶋城の遺構として最初に注目された地点であ
る。古くから港町として集落が栄え、その集落の裏の大きな谷を15分ほど登ったところに
城壁が横たわる。南北方向に延長50mに渡って残る城壁は谷を遮断するかのようであ
る。

城壁の北側は「雉」(ち)と呼ばれる張り出した高台があり、瀬戸内海の眺望が利く場所
である。南側には浦生川が流れ、水門があったものと考えられ、その横に城門が所在した
可能性の高い場所がある。城壁の構造は現在調査中であるが、城内外ともに石積みを築
き、内部は土と石で築いており、山頂の城門地区と類似する構造である。今後の調査が
注目される。



浦生地区城壁



浦生地区城壁



浦生地区城壁石積み

しかし、いずれも明確な古代山城に関連する遺構を特定することができず、屋嶋城は依然、幻の城であった。

そのような中、平成10年に地元の平岡岩夫氏が南嶺の南西斜面部で石積みを発見することとなり、この発見を契機に本市教育委員会による発掘調査が行われ、石積みを伴う城壁のほか
に城門を確認し、日本初の懸門構造であることが明らかとなった。『日本書紀』に記された屋嶋城が眼前に姿を現わし、名実ともに古代山城を代表することとなった。

古代山城とは

西日本各地にある山全体をひとつの防衛施設とした古代に造られた大規模な城を古代山城と呼んでいます。

そのうち屋嶋城や福岡県大野城のように『日本書紀』や『続日本紀』などの文献に記載されている山城を朝鮮式山城と呼んでおり、百済から来た貴族が築城に関わったことに因みます。対馬の金田城(かねだじょう)から大阪と奈良の県境に築かれた高安城(たかやすのき)まで6城が確認されています。

一方、文献に記載されていない山城があります。神籠石(こうごいし)系山城と呼ばれるものですが、それらの多くは山腹を石列で囲んでいる状況から当初霊城と考えられ、神籠石と呼ばれました。発掘調査の結果、防衛施設として判明したもので、現在16城が確認されています。

最近の調査結果では、朝鮮式山城と神籠石系山城は共通点も多く、合わせて古代山城と呼んでいます。

▲ 朝鮮式山城(史書に名の出てくる山城)

やしまのき
a 屋嶋城
高松市〔香川県〕



たかやすのき
b 高安城
八尾市〔大阪府〕・三郷町・平群町〔奈良県〕



おおのじょう
f 大野城
太宰府市・大野城市・宇美町〔福岡県〕



きいじょう
g 基肄城
基山町〔佐賀県〕・筑紫野市〔福岡県〕



きくちじょう
h 鞠智城
山鹿市・菊池市〔熊本県〕



かねだじょう
i 金田城
対馬市〔長崎県〕



※現在まだ発見されていない山城〔所在不明〕: c 茨城 d 常城 e 長門(城)

各地の古代山城

▲ 朝鮮式山城

(史書に名の出てくる山城)

- a 屋嶋城
・高松市(香川県)
- b 高安城
・八尾市(大阪府)
・三郷市(奈良県)
・平群町(奈良県)
- c 茨城(所在不明)
- d 常城(所在不明)
- e 長門城(所在不明)
- f 大野城
・太宰府市(福岡県)
・大野城市(福岡県)
・宇美町(福岡県)
- g 基肄城
・基山町(佐賀県)
・筑紫野市(福岡県)
- h 鞠智城
・山鹿市(熊本県)
・菊池市(熊本県)
- i 金田城
・対馬市(長崎県)

● 神籠石系山城(史書に名の出てこない山城)

- ① 讃岐城山
・坂出市(香川県)
・丸亀市(香川県)
- ② 播磨城山城
・たつの市(兵庫県)
- ③ 大廻小廻山城
・岡山市(岡山県)
- ④ 鬼城山
・総社市(岡山県)

こうらさん
⑩ 高良山神籠石
久留米市(福岡県)



ぞやま
⑪ 女山神籠石
みやま市(福岡県)



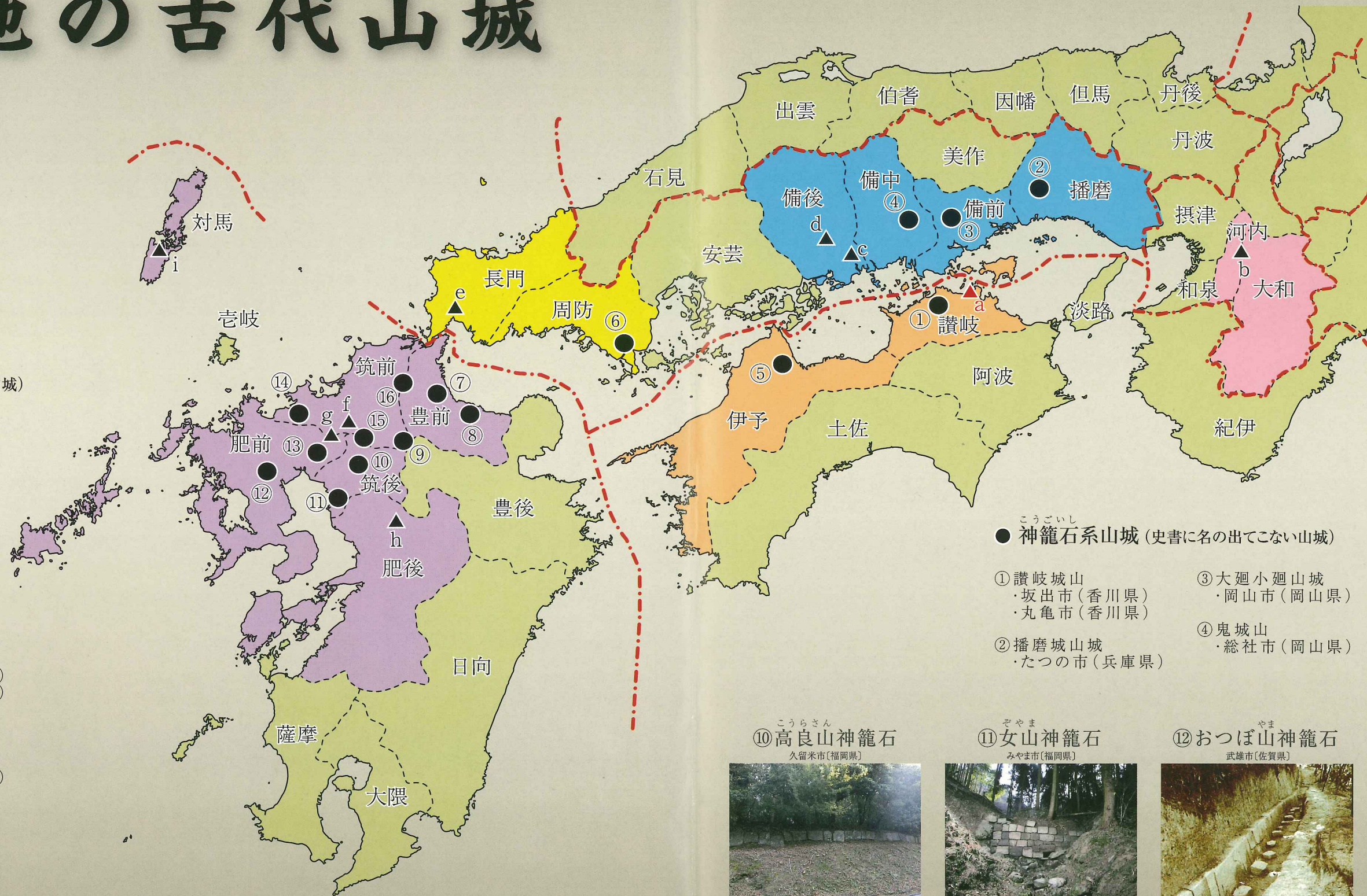
やま
⑫ おつぼ山神籠石
武雄市(佐賀県)



おぶくまやま
⑬ 帯隈山神籠石
佐賀市・神埼市(佐賀県)



- ⑤ 永納山城
・西条市(愛媛県)
・今治市(愛媛県)
- ⑥ 石城山神籠石
・光市(山口県)
- ⑦ 御所ヶ谷神籠石
・行橋市(福岡県)
・みやこ町(福岡県)
- ⑧ 唐原山城
・上毛町(福岡県)
- ⑨ 杷木神籠石
・朝倉市(福岡県)
- ⑩ 高良山神籠石
・久留米市(福岡県)
- ⑪ 女山神籠石
・みやま市(福岡県)
- ⑫ おつぼ山神籠石
・武雄市(佐賀県)
- ⑬ 帯隈山神籠石
・佐賀市(佐賀県)
・神埼市(佐賀県)
- ⑭ 雷山神籠石
・糸島市(福岡県)
- ⑮ 阿志岐山城
・筑紫野市(福岡県)
- ⑯ 鹿毛馬神籠石
・飯塚市(福岡県)

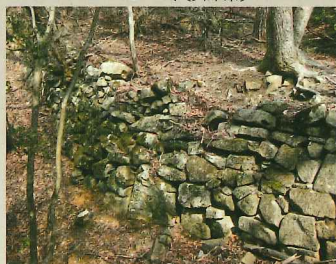


● 神籠石系山城 (史書に名の出てこない山城)

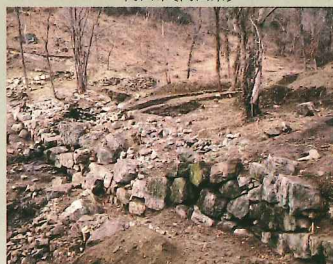
① 讃岐城山
坂出市・丸亀市〔香川県〕



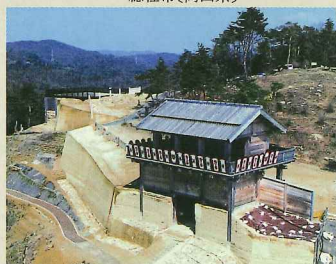
② 播磨城山城
たつの市〔兵庫県〕



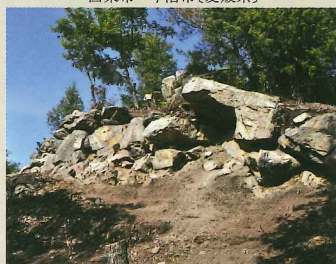
③ 大廻小廻山城
岡山市〔岡山県〕



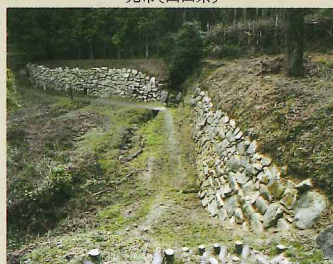
④ 鬼城山
総社市〔岡山県〕



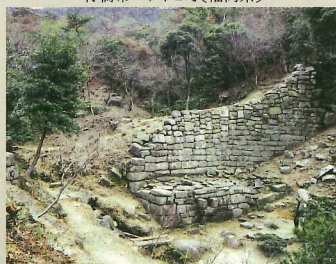
⑤ 永納山城
西条市・今治市〔愛媛県〕



⑥ 石城山神籠石
光市〔山口県〕



⑦ 御所ヶ谷神籠石
行橋市・みやこ町〔福岡県〕



⑧ 唐原山城
上毛町〔福岡県〕



⑨ 杷木神籠石
朝倉市〔福岡県〕



⑭ 雷山神籠石
糸島市〔福岡県〕



⑮ 阿志岐山城
筑紫野市〔福岡県〕



⑯ 鹿毛馬神籠石
飯塚市〔福岡県〕



第4回

古代山城サミット 高松大会

プログラム

8:30	受付	～ 天平衣装でお迎え ～
9:00	開会	オープニング 演奏: 讃岐国分寺太鼓保存会 スクリーン: 屋島イメージ映像, 烽火リレー
9:30	主催者挨拶 来賓紹介 来賓祝辞	高松市長 文化庁, 香川県, 香川県教育委員会, 高松市議会 香川県, 高松市議会
9:50	地元伝統芸能披露	県指定無形民俗文化財 祇園座 (香川町農村歌舞伎保存会) 出演: 高松市立川東小学校児童 演目: 白浪五人男
10:15	自治体首長会議の報告 ・古代山城所在自治体紹介 ・古代山城サミット宣言	高松市 副市長
10:25	休憩	
10:35	学習発表会	「甦れ屋嶋城 過去から現在そして未来へ」, 屋島讃歌 出演: 高松市立屋島小学校児童
11:00	記念講演会	「史跡の活用」 文化庁 主任文化財調査官 佐藤正知
11:25	パネルディスカッション	コーディネーター: 高松短期大学 講師 藤井 雄三 パネリスト: 九州国立博物館 展示課長 赤司 善彦 岡山理科大学 教授 亀田 修一 京都府立大学 准教授 上杉 和央
12:05	次期開催地 伝統芸能披露 次期開催地 代表者挨拶	佐賀県 基山町民俗芸能保存会 災払組 (さいばらいぐみ) 佐賀県 基山町長
12:25	閉会挨拶	高松市教育委員会 教育長
12:30	閉会	

※ 時間は前後する場合がございます。

第4回古代山城サミット高松大会実行委員会

〒760-8571

香川県高松市番町1丁目8番15号 高松市役所7階

高松市創造都市推進局 文化財課内

TEL 087-839-2660 FAX 087-839-2659

bunkazai@city.takamatsu.lg.jp

